

## 要求工学シンポジウム 2015 開催

平成 27 年 7 月 17 日(金)、JJK 会館にて要求工学委員会(青山幹雄、南山大学教授)主催、IIBA(International Institute of Business Analysis)日本支部共催、(一社)日本情報システム・ユーザー協会協賛、「要求工学シンポジウム 2015」が開催された。参加者は 70 名。

午前はシンポジウム全体を俯瞰する講演として、まず青山幹雄要求工学委員会委員長が「要求工学の新展開」と題してビジネスの変化に対応できる要求工学のあり方と本会の活動の紹介を行った。続いて IIBA 日本支部清水千博氏が本年 4 月に刊行された BABOK® V3 の特徴について講演した。



午後は、開発現場で実践するための技術に資する講演会、ワークショップ、パネル形式のディスカッションを行った(詳細はプログラム参照)。

いずれのセッションにおいても質疑が活発に行われて、講演終了後には情報交換パーティを開催し、盛況のうちに散会した。

### ■講演プログラム

時間	セッション名/会場
2 階「多目的ホール」	
10:00~10:05	開会
10:05~11:00	講演「要求工学の新展開」 <p style="text-align: right;">要求工学委員会委員長 青山幹雄(南山大学)</p> <p>【講演概要】</p> <p>クラウドコンピューティング、ビッグデータ、IoT など、情報システムの新たな基盤への対応と、その上で新しい価値を提供できるアプリケーションの開発が求められています。</p> <p>このような状況の変化に対応するために、要求工学の技術と現場への適用の両面で、新たな展開が見られます。</p> <p>ここでは、要求工学の最近の動向を紹介し、あわせて、JISA における要求工学の活動についても紹介します。</p>
11:00~11:10	休憩
11:10~12:00	講演「BABOK® V3 の特徴」 <p style="text-align: right;">IIBA 日本支部 BABOK®担当理事 清水千博(KB マネジメント)</p>

12:00～13:10	休憩	
(移動)	7階「会議室 A」	7階「会議室 B」
13:10～14:00	<p>「新事業創出のためのビジネスモデルデザイン方法と IoT ビジネス開発への適用」</p> <p>井出昌浩(クニエ)</p> <p>【講演概要】</p> <p>新規事業を創出する手段として、IoT を始めとする IT に注目が集まっています。</p> <p>発展が目覚ましい IoT を始めとする IT を価値増大の武器として、IT を積極的に活用したビジネスモデルをデザインすることが不可欠です。</p> <p>本講演においては、IoT をはじめとする IT を活用して、新しいビジネス価値を創出できるビジネスモデルを設計するビジネスモデルデザイン方法、IoT を活用したビジネスモデル開発の事例について説明します。</p>	<p>ワークショップ(定員制)</p> <p>「インスペクションによる要求仕様書の品質向上」</p> <p>位野木万里(工学院大学)</p> <p>中谷多哉子(放送大学)</p> <p>【講演概要】</p> <p>製品ソフトウェア開発において、真の顧客要求に応えるためには、上流工程からの品質の作り込みが必至であり、対象ソフトウェアの機能や非機能の範囲を定める要求定義工程は極めて重要である。近年、従来からのウォーターフォール型による開発に加えて、アジャイル型、メンタルモデルや Situation Awareness 要求等のユーザエクスペリエンス型などの新たな開発パラダイムが取り込まれている。</p> <p>これらの開発パラダイムでは、要求獲得や要求仕様化のタイミングや詳細度は異なる。しかし、関係するステークホルダを明らかにし、製品ソフトウェアの使われ方のシナリオを明らかにし、ステークホルダ間で理解を共有することは、どのような開発パラダイムでも重要視されている。</p> <p>ステークホルダ分析やステークホルダ要求の獲得は、現状では経験を積んだ技術者／分析者が担当することが多く、漏れなく効率的に要求獲得を進めるには多くの経験が必要である。そこで、本ワークショップでは、ステークホルダ分析と、その結果に基づくシナリオ記述を実践体験し、要求獲得技術を研鑽する場を設定することにした。ここでは、具体的なソリューションの導入を想定し、グループに分かれてステークホルダ分析とシナリオを記述する作業を通して、実践の場面での留意点、効率化のコツなどについてディスカッションする。</p>
14:00～14:10	休憩	
14:10～15:00	<p>「インスペクションによる要求仕様書の品質向上」</p> <p>齋藤忍(NTT データ)</p> <p>【講演概要】</p> <p>要求仕様書は要求アナリストが書きます。一方、完成した要求仕様書は、様々な関係者(例:顧客、設計者、実装者、テスト等)が、各々の目的(例:内容の妥当性確認、システムの設計、システムの実装、システムの試験)に基づき読みます。このように読み手、そして読み手の目的も異なる要求仕様書の品質はどのように向上すれば良いのでしょうか?本講演では要求仕様書のインスペクションによる品質向上のコツや事例を紹介します。</p>	<p>ステークホルダ分析やステークホルダ要求の獲得は、現状では経験を積んだ技術者／分析者が担当することが多く、漏れなく効率的に要求獲得を進めるには多くの経験が必要である。そこで、本ワークショップでは、ステークホルダ分析と、その結果に基づくシナリオ記述を実践体験し、要求獲得技術を研鑽する場を設定することにした。ここでは、具体的なソリューションの導入を想定し、グループに分かれてステークホルダ分析とシナリオを記述する作業を通して、実践の場面での留意点、効率化のコツなどについてディスカッションする。</p>
15:00～15:20	休憩	
(移動)	2階「多目的ホール」	

15:20～16:30	<p>最新事例セッション：IoT, アジャイル, ビッグデータ、クラウドを活かす要求工学</p> <p>コーディネータ 要求工学委員会委員長 青山幹雄(南山大学)</p> <p>パネリスト 堀井大砂(SCSK(株))</p> <p>齊藤俊也(クオリカ(株))</p> <p>内藤優介(富士通 FIP(株))</p> <p>英繁雄((株)日立ソリューションズ)</p>
16:30～16:45	休憩
16:45～18:00	情報交換パーティ
18:00	閉会

(溝尾)